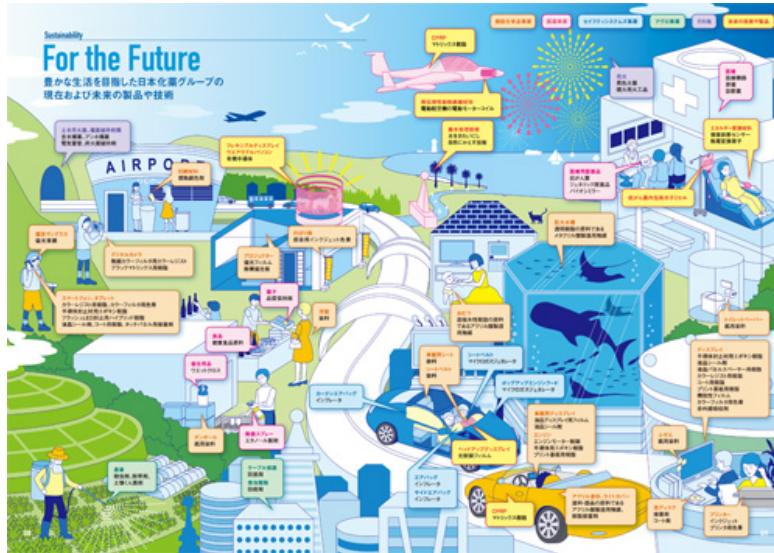


■ 経済的責任を果たす CSR 活動

豊かな生活を目指した日本化薬グループの現在および未来の製品や技術

日本化薬グループは "世界的すきま発想。" でニッチでも突出した技術で付加価値の高い製品を開発し、世界になくてはならない企業を目指しています。



▶ イラスト拡大 

日本化薬グループの事業

日本化薬グループの主となる4つの事業と研究開発をクローズアップし、社会に貢献する技術を活かした開発製品などをご紹介します。

得意技術によるイノベーションの推進、高品質な医薬品の安定供給により、医療の向上と医療費の効率化を通じて社会に貢献していきます

樹脂・色素・触媒をコア技術に情報・通信・省エネルギー・省資源分野へ、特徴のある機能化学品材料を提供し、「超スマート社会」の実現に貢献します

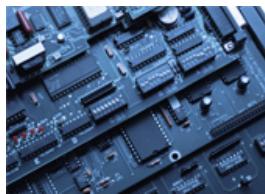


■ 機能化学品事業 ■ 医薬事業 ■ セイフティシステムズ事業 ■ アグロ事業 ■ 研究開発

機能化学品事業

■ 特徴ある機能化学品を提供し、情報・通信、省資源分野を通じて社会に貢献します

来るべき社会は「必要なもの・サービスを必要なだけ提供し、活き活きと快適に暮らすことのできる社会＝超スマートな社会」といわれています。情報通信分野は、個人電子端末と家電や自動車とのネットワークがますます拡大し、それに伴う電子端末に搭載される半導体デバイスの小型化、高性能化、画像表示パネルの高精細化が急速に進んでいます。また、省エネルギー・省資源の要請はますます高まってきております。機能化学品事業では、樹脂や色素、触媒で培った技術で情報・通信、省エネルギー・省資源分野へ特徴のある製品を提供し「超スマート社会」の実現に貢献します。



▶ 機能化学品事業 ↗

医薬事業

■ 得意技術によるイノベーションの推進、高品質な医薬品の安定供給により、治療の向上と医療費の効率化を通じて社会に貢献します

医薬事業では、ナノテクノロジーを用いた抗がん薬内包高分子ミセルに注力し、加えてバイオシミラーおよびジェネリック医薬品など、抗がん薬とその周辺領域に特化した研究・開発を進めています。また現在、乳がんに対する抗体バイオシミラーの国際共同試験に参加し、「フィルグラストムBS」、「インフリキシマブBS」に続くバイオシミラーの製造販売承認取得に向けて取り組んでいます。



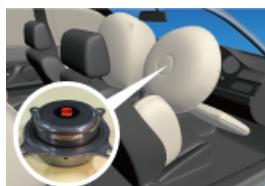
得意技術によるイノベーションの推進、高品質な医薬品の安定供給により、医療の向上と医療費の効率化を通じて社会に貢献していきます。

▶ 医薬事業 ↗

セイフティシステムズ事業

■ 火薬安全技術をコアコンピタンスとして、世界中のより多くの人々に安全を提供し、自動車安全部品を通じて社会に貢献します

世界の自動車生産台数は、東南アジアなどの新興国は中国に次ぐ高い成長が予想されており、これまで以上に自動車安全部品の搭載率が飛躍的に高まることが予想されます。セイフティシステムズ事業では、火薬技術を我々のコアコンピタンスとして研究を続け自動車安全部品を製造販売しています。また、市場に製品を送り出すまでのさまざまなプロセスを開発段階から各部門が連携し、開発から製造・販売までのプロセスを同時に進めることで、素早く市場に製品を提供することを実現しています。今後は、これまで以上に連携を海外拠点間にも広げることで、グローバル製品価値を高め、社会に貢献していきます。



▶ セイフティシステムズ事業 ↗

アグロ事業

■ 食の安定供給に不可欠な安全で環境適合性に優れた農薬製剤技術を提供し、農薬を通じて社会に貢献します

アグロ事業では、化学農薬のみに頼らない総合的病害虫管理（IPM）に適した、気門封鎖剤「フーモン」を2016年2月に上市しました。本剤には、①成分が食品添加物で使用されているポリグリセリン脂肪酸エステル②散布回数に制限はなく、収穫前日でも使用が可能③ハダニ類、アブラムシ類、コナジラミ類やうどんこ病の同時防除が可能④薬剤抵抗性が発現した対象病害虫に有効などの特徴があり、いちご・トマトなどの野菜分野に幅広く使用していただき好評を得ています。



今後も、ニーズにあった技術や資材を研究開発し、提供し続けることで農業に貢献していきます。

▶ アグロ事業 ↗

研究開発

日本化薬グループの研究開発本部は、研究開発を遂行し、最良の製品を提供し続けることにより生命と健康を守り豊かな暮らしを支え社会に貢献します。

また、当社グループの保有する知的財産及び技術の融合や社内外とのオープンイノベーションの推進により、新製品・新事業の創生を図り中長期的視点に立って研究開発戦略を推進しています。

そして、当社グループの最大の研究開発拠点の一つである東京研究エリア（東京都北区）を「研究開発および新事業創生エリア」と位置付け、各事業分野の研究者・研究設備などのリソースを集中して技術と人材の連携と融合を図っています。

▶ 研究開発・知的財産 ▾

■ 近未来社会のニーズを見据えた研究・・・有機半導体材料の研究開発

エレクトロニクス製品は、20世紀の社会の暮らしを飛躍的に豊かにしてきました。現在では、医療機器・パソコン・スマートフォンなどのように私たちの身の回りでなくてはならない存在になっています。これらエレクトロニクス製品のコアとなる材料がシリコンに代表される無機半導体です。

日本化薬では、無機半導体に代わる有機半導体の研究開発を行っています。有機半導体は、柔らかいエレクトロニクス製品を創出できるため、さまざまな製品

（新しい豊かさを社会にもたらす製品）が提案されています。さらに、印刷で生産することも可能であるため、環境に優しく省エネルギーな半導体生産プロセスを作り上げることができます。有機半導体材料は、近未来のエレクトロニクス社会のキーマテリアルとして学術界・産業界から大きな期待が集まっています。

当社の有機半導体材料は、世界でもトップクラスの性能を有しており、国内外の先導的な研究機関との共同開発を行うなど、事業化を加速するために積極的な協業を行っています。

今後も、日本化薬では、近未来の社会ニーズに応える新規テーマを立ち上げ、計画的な事業展開を図り、社会に貢献していきます。

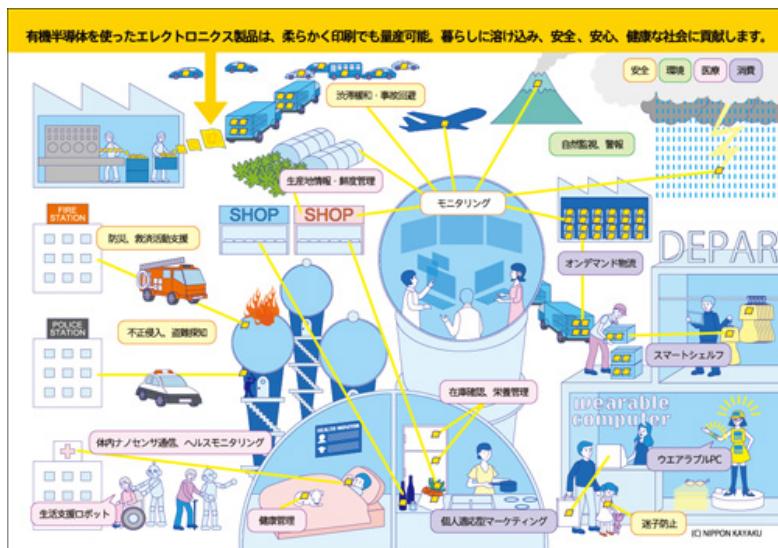
▶ 研究所の概要 ▾



無機半導体



有機半導体



▶ イラスト拡大

研究のグローバル化

日本化薬の標榜するグローバル経営に従い、研究開発本部では、海外グループ会社を包括したグローバルな連携体制の構築を目指しています。海外子会社の研究員との交流なども図りながら、CSRの観点から以下のような活動にも取り組んでいます。

● 海外からのインターンシップ学生の受け入れ

日本化薬では、国内だけでなく海外の大学からもインターンシップ生を受け入れています。インターンシップ生は、日本化薬の研究所で研究開発を中心とするさまざまな活動に取り組み、企業活動や日本文化について学びます。一方、企業側は、若い研究者と一緒に働くことで刺激を受けることができます。今後もインターンシップ生の受け入れを通して、社内風土のグローバル化を進めるとともに、日本の国際交流や海外学生の教育に貢献していきます。

● 海外研究機関との共同研究

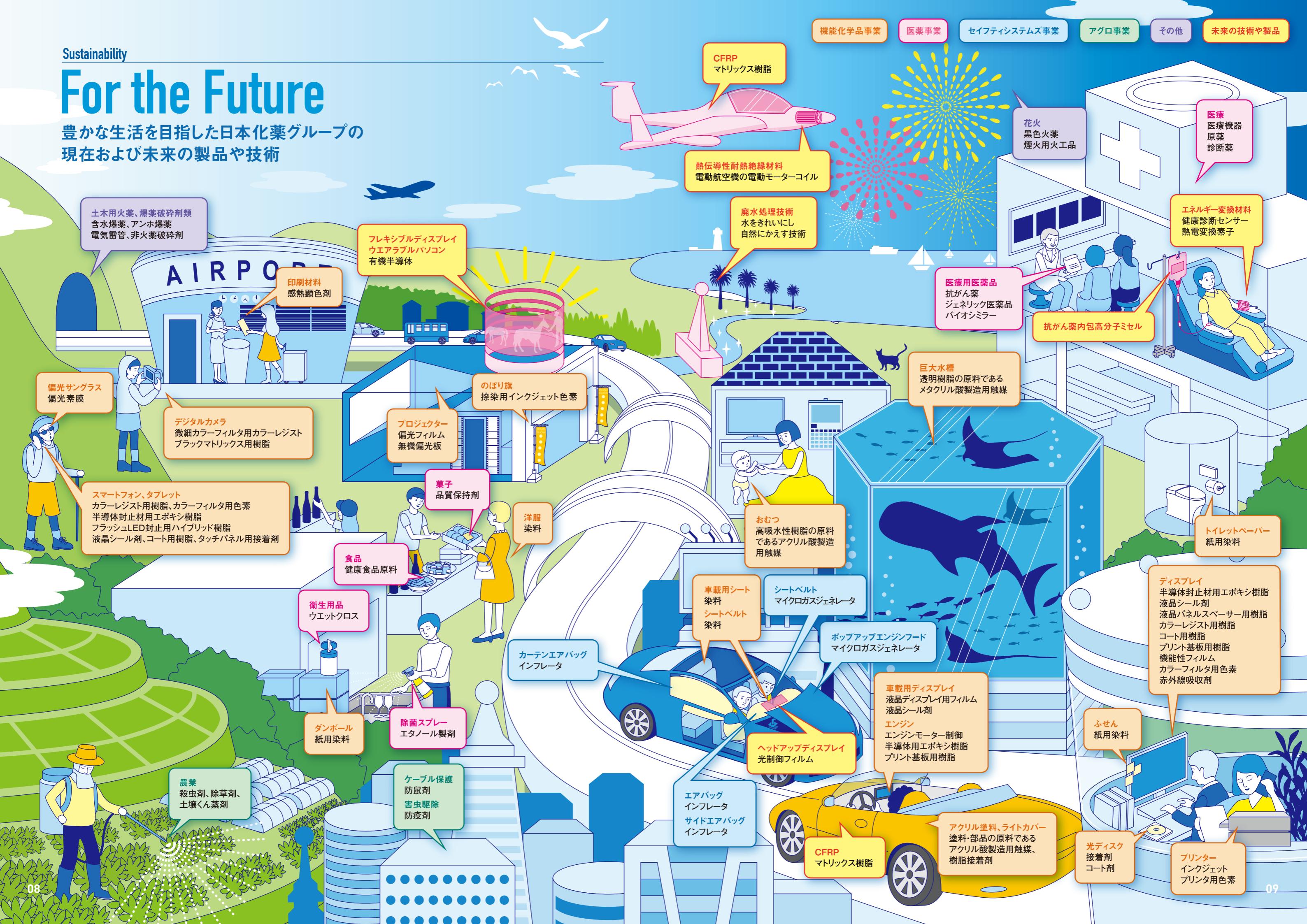
日本化薬では、海外研究機関および国内外のグループ会社との共同研究にも取り組んでいます。海外グループ会社との共同研究ではウェブ会議を活用し、タイムリーな情報交換を密に行い、研究開発を加速しています。また、海外大学の产学連携プログラムも活用しながら、最先端の技術や材料をいち早く取り入れ、持続可能な社会を作り出すことを目指します。

長年培ってきた多くの優れた技術の連携と融合をはかり、課題解決やイノベーションの創出を促進します。



For the Future

豊かな生活を目指した日本化薬グループの
現在および未来の製品や技術



有機半導体を使ったエレクトロニクス製品は、柔らかく印刷でも量産可能。暮らしに溶け込み、安全、安心、健康な社会に貢献します。

